

2020年度夏季手当

第3回、第4回交渉を終えて

2020年度夏季手当交渉は5月28日(木)に第3回交渉、6月5日(金)に第4回交渉を終え、6月12日の回答指定日まで日にちが近づいてきました。この間の会社の考え、組合の主張をまとめてみました。

第3回交渉、組合要求の根拠

- ・緊急事態が発令されたが JR 貨物会社は「指定公共機関」ということもあり、その対象とならず、現場では感染予防策や安全輸送を遂行し、社会的使命を担ってきた。その結果が社員からは感染者が1人も出ず、年間累計収入対計画で89%を推移している。
- ・昨年度は自然災害により大規模な被害を受けたが、単体でも経常利益71億円、連結で89億円の黒字が出ており、10年連続の黒字が達成したのは、現場で働く青年部員が頑張った結果である。

対して会社は

- ・具体的な考え方は次回交渉で示すが、コロナの影響で徐々にではあるが、更に輸送量が下がってきている。6月以降の動向が見通せない状況であるため回答指定日まで収入動向を見ていく。

第4回交渉、組合の主張

- ・先行き不透明というが10年連続黒字、経常利益71億円という実績が出ている。「収入動向を見極めながら」という事では出せないという事になるのではないかと。また、我慢をしいるのか。
- ・現場はコロナ禍の緊張とストレスで疲弊しきっている。評価面談でもモチベーションが下がる様な事まで出ている。今こそ青年部員が喜び、モチベーションが上がる様再考せよ。

対して会社の考えは

- ・コロナ禍で指定公共機関に選ばれた社会的使命を全うされた現場の皆さんには敬意を表する。輸送量は減少傾向だが、現場のおかげで何とか成り立っている。
- ・現時点で、昨年夏の基準額を基本として、どれだけ上積み出来るか収入動向を見極めたうえで回答指定日に回答する。

これから統一職場集会や現場長要請行動が回答指定日に向け予定されています。また FAX 行動も行われています。回答指定日に向けて満額回答に向け頑張ってください！